

平成15年度戦略的研究開発プラン採択案件一覧

番号	所属	テーマ名	研究開発の概要	共同研究先 ()内は県機関
1	工業技術センター	微生物酵素を利用する次世代型ウメ加工技術の開発	これまで、ウメは酸度が高いため、酵素を利用した加工はほとんど行われていなかったが、新たに開発された真空含浸法及び耐酸性分解酵素の利用により、高効率の梅酒及びウメ果汁などの製造技術や ウメ果汁や加工残渣を原料とする新規食品素材(例:抗酸化機能を強化したウメ加工品等)の製造技術を開発する。(15~17年度)	[共同研究先] 中野BC、チョーヤ梅酒、紀南農協、IGAバイオリサーチ
2	工業技術センター	廃木材を原料とする木材用接着剤、防腐防虫剤の開発	廃木材をL-乳酸で分解した物質を利用し、ホルムアルデヒド等の化学物質によるシックハウス症候群の恐れのない、木材用接着剤及び住宅用防虫シート等の製造技術を開発する。(15~17年度)	[共同研究先] 京大、熊野川流域木材協同組合、東洋除虫菊、三木理研工業
3	暖地園芸センター	産地いきいき健康エンドウ生産技術	実エンドウは、現在、収量低下や冬期の品質低下等が大きな問題になっているため、早生で収量の多い「紀の輝」(県育成品種として品種登録申請中)の定着を進める栽培管理技術を開発するとともに、定着品種「きしゅうすい」の収量減の対応策、及び空気莢(実が生育不良のもの)の抑制対策を確立する。エンドウの県内生産額2.8億円(野菜生産額の1.6%) (15~17年度)	[共同研究先] 近大生物理工学部、大阪府立大学農学部、県農協連合会、(農業試験場、工業技術センター)
4	かき・もも研究所	果樹かみん類の発生量予測技術及び防除技術の開発	現在、カメムシの発生は、その増殖源であるスギ・ヒノキの花粉飛散数で予測しているが、これでは春~初夏に限られるため、新たにGIS、衛星データの活用による、スギ・ヒノキの球果量を基にした発生予測技術を開発し、秋期作物(カキ等)の被害抑制対策を確立する。また、薬剤によらない適期防除手法等を開発する。カメムシによる被害額は、多発年では10~30億円 (15~17年度)	[共同研究先] 和システム工学部、(林業試験場)
5	水産試験場	海色画像などを使った漁場探索の高度化技術開発と運用	二種類の衛星画像(水温画像と海色画像)を組み合わせる解析プログラムを開発し、高精度の漁場探索マップ(ネット対応)を作成する。 水温:潮目の識別 海色:プランクトン量 (15~17年度)	[共同研究先] 日本船用エレクトロニクス
6	工業技術センター	紀州革の製造技術	クロム等の化学薬品を用いず、環境に優しい製革製品を開発するため、金属鞣剤の代わりにカキの摘果物(青カキ)から製造される柿渋を利用する鞣製技術、天然染料による革染技術、密ロウ・木ロウなど天然樹脂による艶出し・防水等の仕上げ加工技術を開発する。 (15~16年度)	[共同研究先] 県製革事業協同組合
7	農業試験場	産地の維持・発展を目指した合理的ウメ経営方式の確立	収益が悪化しているウメ生産農家の経営効率を計測し、経営効率と技術的・経営的要因との因果関係を計量的に把握することで、経営改善の指標を確立する。 (15~17年度)	[共同研究先] 大阪府大、紀南農協
8	環境衛生研究センター	底生動物相を用いた河川の水質評価についての研究	底生動物(カゲロウ、カワゲラ等)の動物相・生態系を調査するとともに、理化学分析による水質調査を実施し、河川水質マップ等を作成、普及する。 日置川・熊野川で実施し、これにより県内主要河川を網羅(全国的にも少数) (15~17年度)	[共同研究先] (なし)